

記念講演

AI・IoTは経済構造をどう変えるのか

柳川 範之

東京大学大学院
経済学研究科 教授

目 次

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. はじめに | 6. セットアップコストの低下がもたらす構造変化 |
| 2. 世界チャンピオンに勝ったAI | 7. 機械学習の4条件 |
| 3. シンギュラリティは予想できない | 8. 言葉を操る能力は代替しにくい |
| 4. ホワイトカラーを襲う激震 | 9. 人間としてのアナリストの有用性 |
| 5. IoTには多くのビジネスチャンス | |

1. はじめに

本日は、現在ブームになっているAI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）について経済学、社会学の観点から考えてみたい。この技術革新はどのような意味を持ち、経済、社会構造にどのような影響を与えるのか。

最近のAIの急速な発展には目を見張るものがある。従来コンピューターやロボットにできることは限られた内容で、人間の仕事を上回ることはないと考えられてきた。それが後に説明する様々な発展があり、人間の仕事を奪うのではないか等の懸念が浮上している。

実際に何が起きているのか。機械学習の進展が大きく、特にディープラーニングと呼ばれる手法が大きく発展している。あまり注目されていないが、ビッグデータの活用、その裏側にあるコンピューター技術の発達も大きなインパクトがあった。



その意味でIoTの進展が実質的に大きなインパクトを持ってくるであろう。インパクトとプラスの意味で申し上げている。ここにビジネスチャンスがあり、アナリスト諸氏にも注目すべきポイントがある。

一方で将来に対する様々な不安が広がっている。シンギュラリティ論や、「仕事がなくなってしまうのでは」「世界をコンピューターが支配する時代が来るのでは」といった予測まで出ている。